

第2回玉名市景観審議会 議事録（概要）

■開催日時・場所

平成 28 年 9 月 1 日(水)14 時 00 分～

場所玉名市役所 4 階会議室

■次第

1. 開会
2. 市長挨拶
3. 会長あいさつ
4. 報告
 - (1) 関係者協議結果について
5. 議題
 - (1) 「玉名市景観計画」について
6. 閉会

■配布資料

1. 第2回玉名市景観審議会 次第
2. 第1回玉名市景観審議会 議事録
3. 関係者協議結果及び前回資料からの修正箇所【資料1】
4. 「玉名市景観計画—市民版—」【資料2】
5. 「玉名市景観計画」【資料3】
6. 「玉名市景観形成ガイドライン」【資料4】

■会議風景



■出席者名簿

継承略・順不同

※名前の後ろに◎会長、○副会長

区分	所属	役職	氏名	出欠席
学識経験者	熊本大学	准教授	田 中 尚 人 ◎	○
学識経験者	熊本県立大学	准教授	柴 田 祐 ○	○
市議会議員	玉名市議会建設経済委員会	委員長	田 畑 久 吉	○
関係団体	熊本県建築士会あらたま支部	研修部長	伊 東 和 也	○
関係団体	玉名商工会議所	-	羽 山 眞 澄	○
関係団体	玉名市商工会	理事	森 山 耕 治	○
関係団体	(一社)玉名観光協会	事務局長	柿 添 克 也	○
関係団体	玉名市文化財保護審議会	副会長	前 川 清 一	欠席
関係団体	高瀬まちづくり協議会	会長	矢 田 部 知 明	○
関係団体	玉杵名フォトサークル	副会長	坂 本 良 臣	○
関係団体	玉名市農業委員会	委員	出 口 京 子	○
公 募	一般公募	-	本 田 多 美 子	○
公 募	一般公募	-	村 田 明 彦	○
行 政	熊本県県北広域本部	景観建築第一課長	福 島 祥 泰	○
行 政	熊本県玉名地域振興局	維持管理調整課管理総務班長	堀 口 彰 史	○
事 務 局	玉名市長	-	高 寄 哲 哉	○
事 務 局	玉名市建設部	建設部長	磯 谷 章	○
事 務 局	玉名市建設部建設課	建設課長	松 野 政 宏	○
事 務 局	玉名市教育委員会文化課	文化課長	竹 田 宏 司	○
事 務 局	玉名市建設部建設課	参事	森 田 文 子	○
事 務 局	玉名市建設部建設課	係長	竹 森 明 徳	○
支援事業者	ランドブレイン株式会社	福岡事務所	山 田 快 広	○

■議事録

1. 開会

2. 市長あいさつ

市 長	本日もお集まりいただきお礼を申し上げます。 今回の審議会は後ほど担当より報告するが、景観形成推進地区での住民説明、都市計画審議会での意見聴取をへて開催している。この景観計画は玉名市らしい景観づくりを進めるためのきっかけとなるものである。本計画に掲げた「菊池川が育んだ味わい深い景観を語るまち」をもとに、今後景観計画と通して市民一人ひとりが玉名市の景観に愛着をもち、語ることができるよう活動をしていきたいと考えている。委員のみなさんにおかれては活発な議論をよろしくお願いしたい。
-----	---

3. 会長あいさつ

田 中 会 長	前は7月12日にみなさんにお集まりいただいた。私事ではあるが、熊本地震があつて4ヶ月たって、元にもどりはじめたと思ったが、昨日も大きな地震があつた。熊本市は復興に向けて財政が厳しいため、まちづくりの予算をほとんどカットしてしまった。そうすると、もちろん復興は大事なのだが、まちの元気を出すものがなくなってしまった。玉名市ではこんなに素敵な景観まちづくりの計画ができたので、熊本の復興をひっぱるような活動ができたらと思うので、本日も活発な議論をお願いしたい。
---------	--

4. 報告

(1) 関係者協議結果について

(事務局説明)

(質問なし)

5. 議題

(1) 「玉名市景観計画(案)」について

(事務局説明)

議 長	前回の指摘としては、写真と文言をきちんと使って欲しいということと、将来像の「語る」を「かたる」と平仮名で表現してはどうかという2点だったと思う。 もともとは、玉名市には温泉も田園風景も新幹線もなんでもある、誰もがそのよさを語ることができる、人任せじゃなく自ら語るという意欲が大事ということが「語る」という言葉に込められている。一方で、熊本弁で「かたる」は仲間に入るという意味でもあった。これについてご意見のある方はいるか
委 員	熊本の人間ではないのでわからないのですが、「かたる」という言葉はよく遣う言葉なのか。
委 員	子どもは東京言葉を使うので、あまり使わないかもしれない。

委員	資料を見比べると、ひらがなの方が分かりやすいかなと思う。小さい子どもたちが「かたる」を使わないのであれば、ここで説明することで、そんな意味もあることを知るの でいい機会なのではないかと思う。
議長	この景観計画をつくってきた立場として「語る」に思い入れがないわけではない。“” を使わずにひらがなで「かたる」ということで表現してはどうかと思う。会長案として、 「かたる」と平仮名にして、説明文で「語る」の説明を入れてはどうかと思う。
委員	全体的に前回の指摘をもとに、すごく丁寧に修正をされたという印象がある。20 ペー ジの図もなるほどなといった感じである。35 ページの図も分かりやすくなった。
議長	都市計画審議会や関係者協議で厳しい質問はあったか。
事務局	石貫安世寺地区は山間の地域であるため、地区の方より、木を切る際にいちいち届出 を出すのは迷惑であるという意見があった。そのため、日常の管理における木材の伐採 についての届出は不要ということで、説明をしたところである。 各地区の代表の方には事前に説明をしていたが、住民への説明が地震の影響がありず れ込んだ。そのため住民に説明をしてその後すぐに運用という格好になるのは申し訳な いと思った。
議長	景観計画のほとんどは当たり前のことを当たり前にしましょうと書いてある。それを 知らない業者などが大規模な伐採をすることが駄目だということを理解して欲しいと思 う。また、今回の景観計画を生かすも殺すも住民次第ということを理解して欲しいと思 う。計画を作ることも大事だが、一番大事なのは運用である。
事務局	当たり前のことをすれば問題ないという話が会長からあったように、普通の家を建て るのには何も問題ない。変な建物が建たないようにすることが計画の目的であることを 説明しご理解いただいた。伝えていくことの大事さを感じた。
議長	前回からの継続審議としてあったが、大きな修正がなければ、この内容で承認してい ただきたい。
委員	(了 承)
議長	次に、この景観計画を広めていくにはどうしたらよいかということについて、皆さん よりアイデアをいただきたい。
委員	旧庁舎跡地の再開発が問題となっている。これについて景観という観点から、企画課 と打合せをしたことはあるか。 繁根木川はどのように考えているのか。景観の点はたくさんあるが、点をつなげる線 がないので、そのことについてどのように考えているのか。
事務局	旧庁舎跡地について、景観という視点で話をしたことはないが、跡地内の楠をはじめ とした大木の保存については、旧庁舎跡地の検討の中でお伝えしていこうと思っている。 現段階では調整していない。 繁根木川については、橋梁を届出行為としており、景観形成基準を遵守してやってい くこととしている。繁根木川の清掃は地域の区長さんが中心となってやってくれている ので、継続していきたい。景観づくりは行政だけではできないことなので、地域の取り

		組みと連携していきたいと考えている。
委 員		景観計画の市民版という立派なものができているので、各家庭に配られると思う。また、本日の出席者が属している会議等において、この計画の内容を語って広めていくことが第一歩であると思う。
事 務 局		景観計画策定後は、今年度シンポジウムという形で集まりを持ちたい。また広報誌で連載を半年ほど行う予定である。また昨年度のような景観をテーマにした交流会も開催できないかと考えている。 市民版については10月号の広報と一緒にお配りしたいと思う。
委 員		まずは、関心を持ってもらうことが重要だと思う。玉名市景観100選や写真コンテストなどを開催してはどうか。ジャンルで分けると20点ずつくらいに分けられるのではないかな。そうやって関心を増やして郷土愛を育むことをやってはどうか。
議 長		羽山委員のご意見は、もっと楽しまないといけないということかなと思う。ジャンル別に分けて、誰でも発見できるようにすることも大事だと思う。それが地方創生、玉名に住みたい人を増やすことにつながっていけばと思う。
委 員		一般の人にも興味を持ってもらえるようにすることが重要だと思う。小学生が地域のことを調べることで、地域を好きになるきっかけになると思う。学校にも授業の中でそういったものを取り入れてもらってはと思う。 また、市民だけではなく、業者の人に知ってもらうことも重要だと思う。定住化支援の補助金もあると思うが、その要件の中に景観に関する項目を入れて、その項目はなんだろうと知ってもらうきっかけにしてもらえばと思う。
委 員		地方創生のお話があったが、観光の方面でも広く取り組んでいるところである。中心になるのは人材の育成である。今年は田んぼアートという言葉が出ていたが、高校生が授業の一環で取り組んでいる。また、しょうぶの花を工業製品に使えないかということも研究しており、その成果を今度発表することになっている。景観という角度で地元の高校を巻き込んでいくことも重要ではないかと思っている。やり方としては小学校も含めて、フォトコンテストや見えていない宝を探していくことが重要ではないだろうか。そういった地域を見る機会をつくっていくことが重要だと思う。
議 長		地元の高校生には人づくりとしても景観が役立つと思う。もっと楽しむ、発見して、知るという楽しみもあると思う。
委 員		屋外広告物の許認可を業務として行っているが、市民への周知は重要だと思う。一方で申請があがってきてもなかなか通らないのが、県境を越えた業者、熊本市内の業者の申請である。そういった市の外部の人へ向けた視野も必要だと思う。9月7日の19時50分からテレビの「夢くまモン応援隊！」で高瀬が紹介される。そういったお金をかけない範囲でのアピールも重要ではないか。
議 長		県の方や外部の方との連携も重要だと思う。
委 員		熊本県全体の景観を考える立場におり、景観賞やアートポリスの取り組みを行っている。今回、玉名市で景観計画をつくっていただき、より地域に根ざしたことができるの

		ではないかと思う。教育の中で高校や小中学校で地域ごとの景観のいいところなどの話をしていただくと、学生の中にも景観に対する意識ができるのではないかな。 公共施設をつくるにあたって、景観をこのように考えているというのが重要ではないかな。その中で市民に考えていただくことで意見が出てくるのではないかな。 景観の眺望スポットをつくって説明版を建てて、イベントの告知やそのスポットの説明をするようにすることで、外部の人や地元の人が関心を持つきっかけになるのではないかな。
議	長	地域に根ざしたことができるのが市町村だと思うので、市民を育てることをお願いしたい。
委	員	私の住んでいる地区では、一人の人が花いっぱい運動をしはじめ、現在も活動は地域に根ざして毎年続けている。そういった活動をしている人に景観について分かってもらような集まりができたらいいなと思う。 また、近所には多くの神社があり、毎月掃除をしている。以前、そういった神社をみんなでめぐったことがある。区長さんが小さな塊で習慣的に続けていければ、裾野が広がっていき、大きな活動につながる。
議	長	高速道路の隅っこにゴミが捨てられるなど、人が来ないと荒れていくという感覚はある。見られると美しくなるということは間違いなくあるので、小さいことから始めることは大事だと思う。
委	員	市民の一人ひとりに知ってもらうことは重要だが、景観計画を地元にもって行き、村の人に説明して話してもどこまで理解してもらえるかなと思う。住民に話をしても「玉名市が決めたことだね」で終わってしまう。自分たちの実体験としてきれいになる、美しくなると人が来る、ということを実感していくことが重要ではないかな。 できれば景観形成推進地区が4地区あるため、4地区ネットワークで相互に見に行ったり手伝いをしあったり交流をしながら景観の意識を高める機会があればいいのかなと思う。景観計画を配ってすぐによくなることはないと思うが、少しずつ広げてもらえればと思う。
委	員	以前、職場の上司、先輩からみかん農村集落という景観表彰をいただいたことをお聞きした。今になれば、それがこのことかなと思っている。写真のきれいなみかんの農村集落だったと思う。そのときの話をもっと聞いておけばよかったと思っている。 現在は、地元の公民館掃除などを毎月やって、花を植えたりしている。そういったことをみんなで頑張っている。
議	長	農村集落の風景は、それを営んでいることが重要である。大事な方が亡くなって終わりではなく、それを語り継いでいくことが重要であると思う。
委	員	いい景観にはカメラマンが集まってくる。そのため、写真コンテストを実施することを市にお願いしたい。予算をお願いしたい。今までも写真コンテストをやってきたが、お金がないので、観光協会にやってもらっている。建設課で予算をとって欲しい。予算額の3倍くらいの効果がある事業だと思う。
議	長	繰り返し人が来ることは重要だと思う。カメラマンがちゃんと泊まってお金を落とし

		てもらえるといいと思う。
委 員		景観といっても難しいと思う。歴史の勉強やフォトコンテストから始めてはどうか。 玉名市が住みたくなるまちになってもらえればと思う。そうするためには自分の家の周りをきれいにすることだと思う。南関町に入ると草がきれいに刈ってあるが玉名市では草が伸びている。そういった身近なことをやることが重要だと思う。
委 員		点と点をつなげるとか郷土愛を育むとか、おっしゃるとおりだと思う。景観計画の70ページからアクションプランとなっているので、具体的にやっていくことが重要だと思う。事務局では、シンポジウムと広報誌の連載を予定されているとのことだが、写真コンテストはやりやすいと思う。 写真コンテストは2つやり方があって、プロのカメラマンを呼ぶコンテストと市民が自分の身近な景観を撮影するコンテストをやる方法があると思う。そういった対象を分けて考えることも重要なことかなと思う。 また、写真コンテストは手段だと思う。集まった写真を使って、景観計画の改訂版をつくるときに写真を使うなど、その手段として使っていけないかと思う。
議 長		菊池市の景観計画にも関わっており、菊池市では、人が写りこんだ写真のフォトコンテストをやった。人が写っているため、その人の許可をもらって応募してもらった。そうすると多くの人に来て、写真コンテストは大成功だった。その後、写真を使うこともできるのでいいことだと思う。そういった挑戦をやってもらえればと思う。 また、山都町のまちづくりに関わっていたが、最初は農家に反対された。しかしながら、文化的景観になってたくさんの人が来て、たくさんの人が褒めると農家の人も気分がよくなってくる。そうすると、きれにしたい人が増えてくる。景観はすぐに良くなるものではない。景観が良くなるとすると、そういった教育効果だと思う。良好な景観をつくっていくためには、即時的に一年か二年でやるのではなく、三年から五年かけて、やることだと思う。

7. 閉会
